

# Japanese 日本画

京都の日本画は写生・写実を重視し、描きたいものと真摯に向き合う「対話」を通して観察する力を高めます。日本画専攻では、対象と向き合いながら主体的に自らを成長させることのできる力の育成を目指しています。



## 専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- ☐ 日本の風土を愛し、四季折々の変化を感じる発見力
- ☐ 対象を真摯に観察し、的確に表現する観察力とものづくり力

## 使用する主な画材等

岩絵具 / 水干絵具 / 胡粉 / 墨 / 雲肌麻紙 / 美濃紙 / 膠 など



## 専攻インタビュー

日本画専攻  
3年生  
Kei Yasue

日本画専攻では、対象をよく観察し、時には見る角度を変えたり触れたりしながら描くことを大切にしています。観察を重ねる内に、作品の中で一番伝えたいことは何かを意識するようになりました。卒業後も日本画を描き続け、自分が感じたことを的確に表現できる力を身につけたいと考えています。

## 風景写生

2年時、鴨川の風景を透明水彩で描いた作品。実際に現地に行き、寒さを感じながら描くことで、建物の遠近感やその場の空気感を作品に込めようとしてしました。特に力を入れたのは、水面に映る建物の影です。カラフルで美しいその映り込みを表現するために、細部の調整を重ねました。

また、この課題を通して、忍耐力や集中力が身についたと感じています。写生は決まった時間の中で描かなければならないので、集中力が必要です。絶対に時間内に終わらせる、決めたことは最後までやり切るという意識は勉強でも活かしています。



## 動物画（鶏）

専攻に入って初めての課題。実際に鶏を観察し、何度もクロッキーを描きながらポーズを決め、デッサン、水彩画を経て本制作に入りました。夏休みまでじっくりたくさんの時間を使って観察を続けました。

この課題では、色の使い方に特にこだわりました。羽の部分が角度によって紫や緑に見える美しさを表現したかったため、絵の具の使い分けに工夫をしました。単に形を描き写すのではなく、動き出しそうな生き物らしさを出すことを意識しました。



この課題を経て、自分が作りたいイメージに向けて、試行錯誤しながら作品を作り上げる力が身につきました。



# Oil 洋画

洋画専攻では、描く対象・主題を丁寧に「見つめる」ことを大切に、油彩画やパステル画、エッチング（版画）など、様々な技法を用いて表現することで、現代をより広い視野で捉えるための力をつけることを目指しています。

## 専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- ☐ 常に自問自答しながら、自分なりの答えを導き出すものがたり力
- ☐ 観察を通して、ものの本質を見抜く観察力

## 使用する主な画材・技法等

油絵具 / 木炭 / コンテ / パステル / 銅版画（エッチング技法） / アクリル絵具 / 透明水彩絵具 など



## 専攻インタビュー

洋画専攻  
3年生  
Tenta Shirahama

洋画専攻ではモチーフやモデルをよく観察する機会が多く、そのおかげで「この人はどういう行動をするだろう？」などと気が付くことが増え、人や物との接し方に影響している気がします。将来は、洋画だけにこだわらず、例えばインスタレーションのような表現にも挑戦したいです。

## 鴨川

これは2年生になってすぐの課題で、学校の隣にある鴨川の好きな風景を選んで描くというものでした。川の細かい部分を突き詰めて描きたくて、川面や草の映り込みなどにこだわりました。特に水面の表現は、細かい色の違いを作るのが難しかったです。何度も色を調整して、やっと思い通りの色を出せた時はすごく嬉しかったです。また、天候や時間帯によって見え方が変わるので、午前と午後では同じ場所でも全然違う印象になったり、その変化を追いかけるのは体力的にも、集中力を維持するのも大変でした。でも、実際に現場に行って直接観察しながら描くという経験が、細かな変化にも注意する力になっていると思います。



## 校内風景

校内の風景を描く課題では、教室の廊下に奥から差し込む光と遠近法を意識し、奥行き感を表現することにこだわりました。そのために、建物の構造をしっかりと観察して、正確に線を引かなければいけなかったのが大変でした。自分はどちらかというと直感的に描きたいタイプなので計算しながら描くのは苦戦しました。

でも、この課題を通して、計画的に丁寧に作業することの大切さを学べました。例えば、下描きをしっかりと、角度や細部の精密さを意識することで、結果的に完成度の高い作品に仕上げることができました。こうした計画性は、普段の勉強にも応用できるものだと感じています。

